

【釧路】受験者や入学者の減少に悩む釧路市内の二つの看護専門学校が来年4月から、大学の学位取得も可能な併修制度を導入する。背景には、看護師を目指す高校生が学位も取得できる大学の看護学部などへの進学志向を高めていることがある。両校は地元での通学で生活費や学費を抑えられ、大卒と看護師の資格が取れることをうたい、地域医療の担い手確保を図る。

新たに併修制度を導入するのは、釧路労災看護専門学校と釧路孝仁会看護専門学校の2校。北海道学事課によると、道内の看護専門学校で大卒資格を取得できるようにするのは初めて。

釧路労災は、学校の運営法人が星槎大(横浜市)と教育連携協定を締結した。新規入学者が対象で、オンラインで大学の講義を受けることで、看護学校修了後最短1年で大卒資格が得られる。労災病院に3年以上勤務すると専門学校の学費が全額免除になる奨学金制度を利用すれば、追加の学費約35万円のみで大卒資格が取得可能だ。

孝仁会は、日本医療大(札幌)

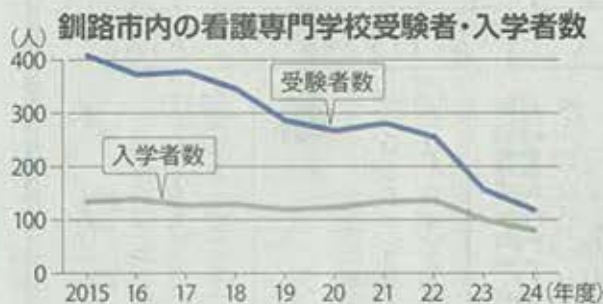
釧路の2校 来春導入へ

看護学校で大卒資格

道内初 学費抑制 入学者増狙う

幌)と協定を締結。大学の単位取得には専門学校の授業料とは別に追加の学費がかかる。卒業後、看護学校に新設される専攻科に進む場合、専門学校で取得した単位の一部を大学の単位として算入できる。釧路市内の看護専門学校4校で、本年度の入学者は定員計140人に対し80人にとどまり、前年度から20人減少。受験者数も過去10年間で最少の計119人だった。

釧路労災の猪口義勝事務長は「看護学部などがある医療系大学に進学する傾向が強まってきた」と分析。少子化に加え、地元医療看護系の大学がないことも要因とみる。市外の看護学校に進学した生徒の多くは、進学先近くの医療機関に就職しており、市内科小児科開業医会の杉元重治会長は「少子化が進み、この地域で看護師を目指す人自体が圧倒的に少ない」と危機感を示す。(三島七海)



釧路労災看護専門学校



釧路孝仁会看護専門学校